

# 第1学年2組 体育科学習指導案

令和7年9月16日(火)

授業者 岡田 耕作

I 単元名 マット遊び～みほなんランドで遊ぼう～(器械・器具を使っての運動遊び)

## 2 授業づくりの構想

### (1) 運動の持つ特性

器械運動系は、「回転」「支持」「懸垂」などの運動で構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりすることで、それらができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動(遊び)である。特に本単元のマットを使った運動遊びは、日常では経験できない姿勢で運動を行うため、感覚的な楽しさや喜びを味わうことができる。

この運動は、マットを使った運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして基本的な動きや技能を身に付けることが大切な運動である。

運動遊びを楽しく行うための簡単な遊び方を工夫する思考力・表現力や、きまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしたり、場や器械・器具の安全に対する感覚・技能を身に付けてすることもできる運動である。

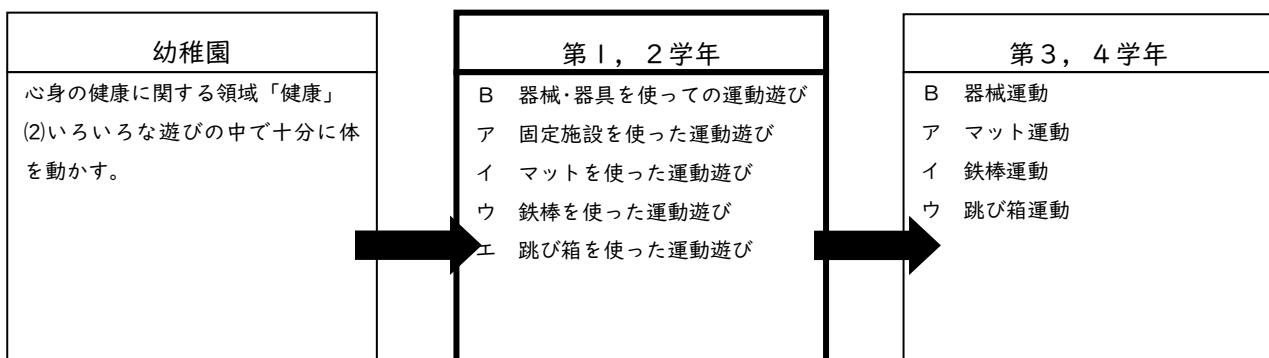
### (2) 児童の実態

本学級の児童25名(男子13名、女子12名)は、多くの児童が「体育科が好き。」と答えている。また、体を動かすことが好きな児童も多く、体育科の授業に意欲的に取り組む姿がある。しかし、夏休みまでの体育科の様子を見ていると、得意でないことになると、挑戦する前からあきらめてしまう児童が数人見られる。

事前のアンケートによると、友達と運動するのが好きと答えた児童が96%であった。休憩時間に複数人の友達と仲よく鬼ごっこをしたり、大縄跳びをしたりして過ごす様子がある。ただ、体育の授業において、友達にこつを教えたり、友達と協力して遊びを工夫したりする活動の経験はない。

マットを使った運動遊びは、幼稚園や保育園でもしており、マットを使った運動を楽しいと感じている児童が多い。しかし、器械運動につながる基本的な動きの経験は少ないようである。

### (3) 運動(学習内容)の系統性



### (4) 単元の目標

#### 【知識及び技能】

マット遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができるようとする。

#### 【思考力、判断力、表現力等】

器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようとする。

#### 【学びに向かう力、人間性等】

マット遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようとする。

## (5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

1 つくる／はぐくむ（＝学習の個性化）
○場の設定
・活動時間を確保し、様々な動きに取り組むために、4つの場を確保する。単元後半には、4つの場をローテーションしながら学習を行う。ジグザグマットやさかみちマットなどマットの形によって場を分ける。いろいろな場でマット遊びをする楽しさに気づくことができるようとする。
○アナロゴン（感覚運動に類似した予備運動）を取り入れる。
・準備運動（やってみよう）で、動物歩きなどのアナロゴンを取り入れる。本時の内容や前時までの学習を踏まえて、少しづつ準備運動で取り入れるアナロゴンを変えながら行う。楽しみながら基礎感覚を身に付けることができるようとする。
2 あつまり、ともに、つながる（＝協働的な学び）
○単元構成
・児童をつなぐ支援として、3～4人組で8グループ作り、チームで協力してマット遊びをする楽しさに気づかせたり、技能の向上につなげたりしていきたい。運動能力のみでグループ分けをするのではなく、友達にこつや動きの良さを伝えることができる力も考慮してグループ分けをすることで、協働的に学べる環境づくりをしていきたい。
・単元前半では、基礎的な動きを取り入れながら、児童同士をつなぐ声かけをして、友達と協力して学習する素地を身に付けられるようにしたい。きまりや順番を守って安全に用具の準備をしたり、マット遊びをしたりすることができるようになる。また、友達の良い動きを見つけて肯定的な言葉掛けをすることで、楽しく学習に取り組めるようにしたい。
・単元後半には、マット遊びを工夫して行う。いろいろな形のマットで工夫して遊ぶことで、マット遊びをより楽しめるようになる。グループの友達と動きをそろえたり、手をつないで転がったりするなかで、友達とマット遊びに取り組むよさに気づかせるようにしたい。1年生でマット遊びの工夫の仕方を理解しておくことで、2年生になった際に、自分たちで工夫して楽しくマット遊びに取り組めるようにしたい。
3 誰でもアクセスできる（＝指導の個別化）
○易しい体育の実現
・マット遊びが苦手な児童も主体的に楽しく学習できるように、自分の運動経験や体力レベルに合わせて動きを工夫してマット遊びができるようになる。
・私たちの体育のイラストを大きく掲示してその中にこつを書き込んでいき、いつでも見られるようにしておくことで、技のポイントを意識しながらマット遊びに取り組めるようになる。

## (6) 単元の「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方

関わり	低学年	具体的な活動・姿
する	<ul style="list-style-type: none"> <li>マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊んだり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らしたりするなどして遊ぶ。（知識及び技能イ）</li> <li>マットを使った運動遊びの簡単な遊び方を選ぶ。（思考力、判断力、表現力等ア）</li> <li>マットを使った運動遊びに進んで取り組む。（学びに向かう力、人間性等ア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接転技（ゆりかご、前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太ころがり）をする。</li> <li>ほん転技（うさぎ跳び、支持での川跳び、腕立て横跳びこし、ブリッジ）をする。</li> <li>平均立ち技（かえるの逆立ち、かえるの足打ち、背支持倒立、壁のぼり逆立ち）をする。</li> <li>マット遊びに何度も取り組もうとしている。</li> </ul>
みる	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のよい動きを見つける。（思考力、判断力、表現力等イ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物（友達の気付き）と比べて、自己の課題や友達のよい動きを見つける。</li> <li>教師や友達の手本を見て、技の成功につながるポイントを見つける。</li> <li>学習の記録をわたしたちの体育に書く。</li> </ul>
支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことを友達に伝える。（思考力、判断力、表現力等イ）</li> <li>順番やきまりを守り、誰とでも仲よくする。（学びに向かう力、人間性等イ）</li> <li>器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にする。（学びに向かう力、人間性等ウ）</li> <li>転がるときなどに、危険なものが無いか、近くに人がいないか、マットなどの器械・器具が安全に置かれているかなどの場の安全に気を付ける。（学びに向かう力、人間性等エ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの時間に、運動のこつや友達の動きのよさを発表する。</li> <li>友達を応援したり、アドバイスを行ったりする。</li> <li>マットの準備や片付けを友達と協力して行う。</li> </ul>
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>マットを使った運動遊びの行い方を理解する。（知識及び技能イ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な転がり方や支持の仕方を知る。</li> <li>「わたしたちのたいいく！」を活用し、マットを使った遊びや動きについて知る。</li> <li>マットの準備の仕方、安全な使い方を知る。</li> </ul>

## (7) 単元の流れ及び評価の計画

	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
主なねらい	学習の進め方を理解しよう。	いろいろなマット遊びをしよう。			マット遊びを工夫しよう。		
核となる学習内容	・学習のねらいと進め方 ・問い合わせ	ほん転技の運動	平均立ちの運動	接転技の運動	遊び方を工夫する。 友達と運動に取り組む。		
学習活動	・やつてみようを行なう。 ・準備の仕方、安全な活動の仕方 ・オリエンテーション	集合、挨拶、場の準備→ねらいの確認 <やってみよう> クマ→アザラシ→ゆりかご→うさぎ跳び ※少しずつ多様な動きを取り入れる。					
		<b>活動① いろいろなマット遊びをしよう！</b> ・ほん転技の運動遊び（川飛び、腕立て横跳びこし、ブリッジ）を行う。 ・ほん転技（川飛び）のこつを考える。再度、川飛びをやってみる。友達に評価（ほめる、ハイタッチ）してもらう。 ・工夫して川飛びをする。連続回数を友達と数え合う。			<b>活動② マット遊びを工夫しよう</b> ・ほん転技の運動遊びを復習する。 ・平均立ちの運動遊び（かえるの足打ち、首倒立、壁のぼり逆立ち）を行う。 ・平均立ちの運動遊び（かえるの足打ち）のこつを考える。友達に評価してもらう。 ・工夫してカエルの足打ちをする。友達と動きをそろえて行う。		
振り返り							
評価の計画	知		④（観察）	③（観察）	②（観察）	②（観察）	①（観察・ビデオ）
	思					①（観察）	②（観察）
	態	①（観察・ビデオ）		③（観察）		②（観察・ビデオ）	

具体的な評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①マット遊びの行い方を知っている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がることができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをすることができる。 ④体を反らせて遊ぶことができる。	①マット遊びの簡単な遊び方を選んでいる。 ②友達の良い動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	①マット遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番や決まりを守り、誰とでも仲良く運動をしようとしている。 ③場や器械・器具の安全に気を付けている。

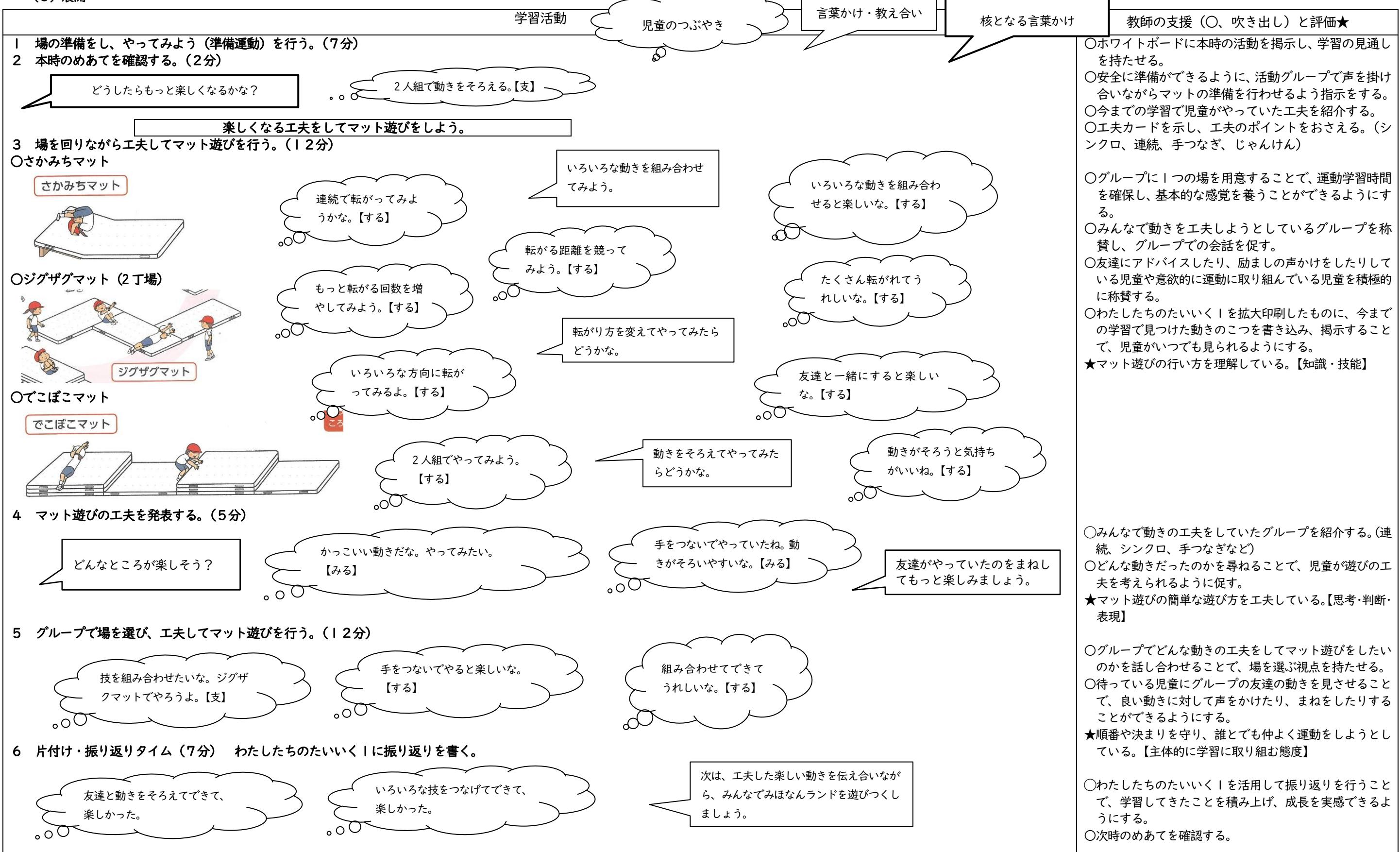
### 3 本時の学習（6/7）

#### (1) 本時の目標

- ・マット遊びの行い方を理解することができる。【知識及び技能】
- ・マット遊びの簡単な遊び方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・順番や決まりを守り、誰とでも仲良く運動をしようとすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 準備 ホワイトボード マット ふみきり板 カラーテープ わたしたちのたいいく！ カラーコーン スピーカー ipad

#### (3) 展開



イラストは「わたしたちのたいいく！ 2025年版(文教社)」より引用